

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト第6期活動
～活動報告書～

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト
共同委員長 長谷川 閑 史
(公社)経済同友会 代表幹事
石 田 建 昭
(中部経済同友会 代表幹事)

I. 活動概要

(1) 活動方針

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは東日本大震災からの復興支援活動の実施に際し、被災地復興の基盤となる「人づくり」と「産業活性化」に貢献することを基本方針としている。

第6期活動では、第11回運営委員会(2013年11月25日開催)および第12回運営委員会(2014年1月14日～16日書面開催)において、特に大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の専門高校にほぼ均等に実習機材を支援することを中心としたうえで、各県教育委員会の要望を踏まえ、寄附が順調に寄せられた場合には普通科高校にも若干の機材を寄贈する旨を決議した。また、併せて、国公立大学による復興支援事業、ならびに宮城県教育委員会が主催する第24回全国産業教育フェアの開催資金への資金援助の実施を決定した。

これら決議に伴い、寄附目標総額を2.7億円(専門高校約2.47億円、国公立大学1,130万円、全国産業教育フェア1,100万円)と定めた。

(2) 寄附募集

第6期活動では、当プロジェクトに対する寄附について東京国税局による寄附税制適用の確認を得た(2014年2月21日付)ことから、2014年3月3日より寄附金の受付を開始した。以降、7月31日の期間満了までに、192の企業・法人ならびに14名の個人より寄附金を受領した(「II. 収支報告書」を参照のこと)。

(3) 支援活動

第6期活動では、参加企業・法人より受領した寄附金を第11回および第12回運営委員会での決議に基づき、岩手県・宮城県・福島県の専門高校への実習機材の寄贈を中心とする以下の支援に充当した(「II. 収支報告書」を参照のこと)。

なお、被災した専門高校への実習機材の贈呈については、各県教育委員会と寄附募集前に協議を重ね、各校における優先度に基づいて支援内容を決定している。

1) 岩手県

①被災した専門高校への実習機材提供

岩手県内では、高田高校、釜石商工高校、久慈東高校、久慈工業高校、宮古水産高校に添付実習機材を提供した。2014年6月25日に釜石商工高校へ数値制御旋盤（NC 旋盤）の設置工事を完了して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、7月24日の久慈工業高校への数値制御工作機（マシニングセンタ）の搬入・据付をもって第6期活動による岩手県内の専門高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

②被災した普通科高校への機材提供

第6期活動では、目標総額を上回る寄附が寄せられたことから、岩手県教育委員会から要望のあった普通科高校4校（大船渡高校、宮古高校、宮古北高校、大槌高校）に添付実習機材を提供した。2014年5月末に宮古北高校へデジタルビデオカメラを寄贈して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、6月17日の大槌高校への会議用テーブル20台の寄贈をもって第6期活動による岩手県内の普通科高校への機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

③国立大学法人岩手大学

国立大学法人岩手大学が実施する震災復興プロジェクト「三陸地域復興センター」に対して、2014年8月21日付にて646万7,528円を入金した。

2) 宮城県

①被災した専門高校への実習機材提供

宮城県内では、石巻工業高校、白石工業高校、宮城県農業高校、気仙沼向洋高校、石巻北高校、亘理高校、本吉響高校、伊具高校に添付実習機材を提供した。2014年6月9日に宮城県農業仮設校舎に3次元CAD/CAM装置一式の搬入・設置を完了して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、8月初旬の白石工業高校へのCAD教室システム一式の搬入・設置をもって第6期活動による宮城県内の専門高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

②宮城県教育委員会 全国産業教育フェア開催資金

宮城県教育委員会が主催する第24回全国産業教育フェア開催資金として、2014年8月21日付にて1,100万円を入金した。

③国立大学法人東北大学

国立大学法人東北大学に対して、同大農学研究科が実施する「東北復興農学プロジェクト」の運営資金として2014年6月12日付にて350万円を入金した。

④公立大学法人宮城大学

公立大学法人宮城大学による「復興ステーションプロジェクト」に対して、南三陸町における復興支援事業などを行うための資金として2014年8月21日付にて650万円を入金した。

3) 福島県

福島県内では、いわき海星高校、磐城農業高校、双葉翔陽高校、小高工業高校に添付実習機材を提供した。2014年6月24日にいわき海星高校へアンカー模型等を寄贈して以降、順次、実習機材の納入を行い、8月27日に磐城農業高校に梨棚一式を設置して第6期活動による福島県内の専門高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

II. 収支報告書（添付収支内訳参照）

（1）収入の部

第6期活動では、2014年3月3日の受付開始以降、期間満了となる7月31日までの間に、個人14名より104万円、192の企業・法人より3億227万7,281円の寄附金を受領した。また、3月11日に全国経済同友会地方行財政改革推進会議震災復興部会が開催した「全国経済同友会東日本大震災追悼シンポジウム」における会場募金17万2,170円および、募集期間内に発生した受取利息収入1万75円についても寄附金に支援に充当することとした。以上により、第6期活動における収入は総額3億349万9,526円となった。

（2）支出の部

第6期活動では、総額2億7,603万1,998円の実習機材を被災した専門高校に提供した。内訳は、岩手県8,910万5,257円（高田高校894万8,621円、釜石商工高校2,801万6,986円、久慈東高校689万391円、久慈工業高校2,775万522円、宮古水産高校1,749万8,737円）、宮城県9,334万206円（石巻工業高校749万9,952円、白石工業高校5,180万228円、宮城県農業高校2,000万9,090円、気仙沼向洋高校1,048万1,581円、石巻北高校88万6,464円、亘理高校98万9,107円、本吉響高校120万7,224円、伊具高校46万6,560円）、福島県9,077万2,514円（いわき海星高校4,391万4,630円、磐城農業高校2,341万3,244円、双葉翔陽高校1,399万6,800円、小高工業高校944万7,840円）となった。

また、岩手県内の普通科高校4校（大船渡高校14万5,800円、宮古高校62万4,024円、宮古北高校12万1,972円、大槌高校192万2,227円）に総額281万4,023円の実習機材を寄贈した。

なお、各実習機材の購入に際しては、丸紅プロテックス株式会社、福島日産自動車株式会社に発注し、据付調整・搬入まで実施した。

国立大学による復興支援事業への資金援助については、国立大学法人岩手大学三陸地域復興センターに 646 万 7,528 円、国立大学法人東北大学農学研究科東北復興農学プロジェクトに 350 万円、公立大学法人宮城大学復興ステーションプロジェクトに 650 万円の支援を実施した。

宮城県教育委員会が主催する第 24 回全国産業教育フェア宮城大会の開催資金の支援として、宮城県教育委員会に 1,100 万円の寄附を行った。

以上により、第 6 期活動における支出は総額 3 億 349 万 9,528 円となり、収入全額を支援活動に充当し、差引収支額は 0 円となった。

以上